

年 組 名前:

「ボロ電」軌跡たどる

廃線60年 昭和のバスでツアー

駅跡や車両見学 講演会も



ボロ電が通った通称・廃軌道を走るモノコックバス

「ボロ電」の愛称で親しまれた山梨交通電車の廃線60年を記念し、山梨交通は19日、ボロ電の軌跡をたどるバスツアーを行った。参加者は旧駅に建てられた記念碑などに立ち寄りながら、甲府駅前―甲斐青柳駅(富士川町)間の片道約20キロの道のりを往復した。(山本久美子)

県内外から電車・バス愛好家10人が参加。甲府駅前レトロな風合いの「モノコック」跡に建てられた記念碑を見学。ボロ電は30年に運行を開始。雨宮正英社長らとともに、



竹1丁目

貢川駅跡を見学する参加者。当時の敷石やレールを使い線路が復元されている川いずれも甲府市富

始。全28駅で、甲府と峡中南地域を結ぶ地域住民の足として活躍したが、自動車の普及などで62年に廃線となった。

バスはボロ電が通った通称・廃軌道などを走り、参加者は貢川駅跡に復元された線路や、富士川・利根川公園に残る車両などを見学。昼食後には、雨宮社長がボロ電の歴史を語る講演会も開かれた。

夫婦で参加した甲斐市万才の高野玄隆さん(61)は家族が旧駅跡を利用していたとい

(2022年10月20日付 山梨日日新聞21面)

う。「生まれてすぐ廃線になったが、母親におふわされて乗っていたらいい。その道をたどってみたい」と話した。「モノコックバスに乗りたい」「廃線に興味がある」と東京や新潟から駆けつけたファンもいた。

ツアーは22日にも実施。雨宮社長は「コロナ禍で公共交通事業者は苦戦している。廃線60年を機に、公共交通について考え、目を向けてもらいたい」と話している。

問1 「ボロ電」の正式名称を教えてください。

.....

問2 ボロ電の、復元された線路と車両は、どこにいけば見学できますか。

線路: 車両:

問3 山梨交通の雨宮社長は、どのような思いで、このツアーを企画したのですか。

.....

.....